



2月～3月の出前授業の紹介

1月に行われた南城小学校に続いて、2月～3月1週目までの期間に、下の11校で、3年生「昔の道具と暮らし」の出前授業が行われました。どの小学校の子ども達も多くのことに気づき、意欲的に使い方を予想し話し合っていました。

八重畑小
2/2月



若葉小
2/12木



桜台小
2/25水



湯本小
2/26木



花巻小
2/3火



笹間第一小
2/18水



石鳥谷小
2/27金



大迫小
2/10火



東和小
2/19木



八幡小
3/4水



矢沢小
3/5木



各校児童の感想の一部（順不同）

- ・手回し洗濯機が分からなかった。炊飯器かと思った。
- ・昔のものでもいろいろな工夫があるんだなと思った。
- ・アイロンがすごく進化しているのが分かった。
- ・火鉢のを見たときは、植木鉢かと思った。
- ・ハエ取り器は、お米をたいたり焼いたりするものだと思っていたけど、ハエ取り器でびっくりした。
- ・昔のものは、炭が入っているものが多いことを知った。
- ・昔の人は電気がなかったから、炭の火を活用してアイロンをしていたから、すごいなと思った。
- ・今は電気があるけど、昔の人は全部火で明るくしていたので、すごいなと思った。
- ・今は石鳥谷にスケート場があってすぐ行けるけど、昔は田んぼとかの氷でスケートをしていたことが分かった。
- ・昔はいろんなことが大変だったんだなということを知ることができた。
- ・たらいは分かっていたけど、洗濯板もちゃんと工夫があるんだなと思った。
- ・アイロンの移り変わりとかが、よく人の気持ちを受け取って進化しているなと思った。
- ・時代の変化によって違う道具になっていった。昔の暮らしも見てみたいと思った。
- ・昔から今までいろいろ進化して便利になっていることが分かった。
- ・たらいが、洗うだけじゃなく冷やす使い方があるのが分かった。



【壁掛け電話】は、電話交換手（左の写真）につないでもらってました。授業ではかけ方を実演(?)します。

裏面に続く

今年度の博学連携事業終了

～ ご協力ありがとうございました ～

令和7年度第2回博学連携研究会が2月16日（月）に当館で開催され、①7年度報告、②8年度計画、③新作の出前授業（豊臣秀吉の全国統一と当時の花巻との関わりを解説し、どこの学校でも実施できる内容になることを目指した授業）の検討が行われました。

協議の中で、小・中学校の研究員の先生方からは、建設的なご意見をたくさんいただきました（一部を下に記載）。これらを考慮しながら館内で検討してまいります。研究員の先生方、ご検討、ありがとうございました。



中学校研究会の様子



小学校研究会の様子

●花巻城の境を確かめるフィールドワークを実施してほしい（教員用）

●花巻と旧3町のつながりを説明するときは地図がポイントになる

●生徒はたぶん南部氏の立ち位置（豊臣武将と比べて）が知りたい

●甲冑・火縄銃・模造刀から導入→南部藩と伊達藩との確執に進む

●稗貫氏和賀氏の主な城跡は、各地域の地図に当てはめて紹介する

●城というと大阪城などを想起するのでイラストや図があるとよい

3月5日の矢沢小学校の出前授業終了をもちまして今年度の博学連携事業が終了しました。先生方、1年間ご協力ありがとうございました。次年度の博学連携事業も、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、令和8年度の第1回研究会は、博物館休館日の関係で、**中学校も小学校も5/26（火）同日開催**で計画しています。中学校14:00～、小学校15:30～開始の予定です。

次年度の企画展示のご案内

令和8年度の企画展示の予定をご紹介します。以下の企画展示が行われている期間に博物館を見学すると、常設展示室と合わせて見学することが可能です。次年度の見学計画を立案する際の参考にしてください。（当館と宮沢賢治記念館の休館日にご注意ください）

●テーマ展「-博物館資料でめぐる-植物デザイン展」4/24 金～6/14 日

●テーマ展「つくり、つたえる 花巻の工芸」7/4 土～8/30 日

●特別展「大正イマジユリィの世界」9/12 土～11/23 月祝



竹久夢二「涼しき装ひ」『三越』15巻第6号

●テーマ展「花巻人形」

（令和9年）1/30 土～4/11 日

大正から昭和初期にかけて、印刷技術の飛躍的発展とともに、芸術は複製芸術という形で大衆の手に渡りました。大正時代を中心に、明治末から昭和初期までのブックデザインなどを紹介します。

※イマジユリィとは「イメージ図像」を意味するフランス語のこと。主に大正から昭和初期に普及した、雑誌の装幀、挿絵、ポスター、絵葉書、広告などの「大衆的な複製印刷物」の総称。

一年間「ふくろう」をお読みいただきまして、ありがとうございました。

令和8年度も、博物館と学校との連携につながる内容を、分かりやすくお伝えすることを目指します。どうぞよろしくお願いいたします。